



学校だより

平成29年9月29日
横浜市立豊田小学校
10月号

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

読書の秋へ

校長 瀬尾芳保

朝夕に吹く心地よい風に、ススキの穂が揺れて10月4日の十五夜が待ち遠しく感じる時期になりました。

9月20日に1年生と金沢自然動物園に遠足に行きました。友だちと力を合わせてポイントに立つ先生を探し、スタンプを押してもらいながら、動物の様子を見学しました。入学当初は先生の話聞いて行動するのも難しい場面もありましたが、園内をグループで見学している様子を見て、この半年の成長を感じました。

さて、最近読んで心に残った本があったので紹介したいと思います。

その本は「ぼくたちのリアル」 戸森しるこ作 講談社 です。小学校5年生の主人公「アスカ」が幼なじみの「リアル」、転入生の「サジ」との間で経験する5ヶ月間の成長の物語です。

5年生の子どもたちが、それぞれに違った背景をもちながら友達を思い、友達を理解しようと苦しむ中で、自分自身の思いに気づき、少しずつ大人になっていく姿を描いています。友達と、周りの大人たちと時には衝突し、それでも真剣に向き合ってお互いの思いをぶつけ合いながら、その思いを受け止めていく心の変化が、とても読みやすい文章で書かれています。

例えば次のような一説です。『でもさ、あのときのリアルも、いまのサジも、自分以外のだれかのために必死になっている。ぼくはいつも自分のことを一番に考えてしまうから、そういうとき、ホントにすげえなって思う。』というところからは、主人公が友達をととてもよく見ていて、自分のことも客観的に見ていることが感じられます。また、『サジのその考え方は、僕たちにとってはとても新鮮だった。リアルが

かかえつづけてきた、そしてぼくが逃げつづけてきた、答えの出ないむずかしいその問題に、サジはそんなふうになぐさめを与えてくれた。』という文章からは、自分のことだけでなく、友達を感じ方やその友達とのつながりが変化していくことに対する感性を感じます。そして、『きみの大切な気持ちを、ぼくたちはずっとずっとわすれない。』という、子どもたちの成長と未来への希望を感じるラストになっています。

これから子どもたちみんなが、出合い方は違っても、友達や自分の思い、それぞれの生き方を見つけていくときの、誰にも当てはまりそうな物語が描かれていると感じました。

自分ではうまく言葉にできないけれど、なんとなくもやもやと感じていることを、登場人物が自然に語ってくれました。また、物語の中に、自分にとって大切な「本当のこと」が書かれているのを見つけることができました。そして心が成長するとはどんなことだろう、と改めて考えるきっかけにもなりました。

こんな経験ができるのが、読書の最高の楽しみです。皆さんもぜひ、「ぼくたちのリアル」手に取ってみてはいかがでしょうか。

この本は、今年の青少年読書感想文全国コンクール 高学年の部課題図書です。

「読んだよ」という人はぜひ感想を聞かせてください。自分とは違った感想を聞けるのを楽しみにしています。

中学年の部の課題図書、「耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ」もおすすめの一冊です。

この秋に心に残る一冊に出会えるといいですね。